

あなどれない 食物アレルギー ～危ない！アナフィラキシー～



❁ 板垣 康治

神奈川県衛生研究所
アレルギー研究プロジェクト

みなさんは、「アナフィラキシー」ということばを聞いたことがありますか？食物アレルギーでは、皮膚症状（蕁麻疹、紅斑など）、呼吸器症状（咳、呼吸をするとゼーゼー、ヒューヒュー音がする、声がかすれるなど）、消化器症状（嘔吐、腹痛、下痢など）のほか様々な症状が起きます。そのなかでも特に注意をしたいのが「アナフィラキシー」です。アナフィラキシーとは、アレルギー反応が全身で起き、呼吸や血液の循環

などで重篤な症状を伴うもので、ショック症状（意識障害、血圧低下、呼吸困難など）を起して命が脅かされることもありまます。米国では毎年、50名以上の方がピーナツアレルギーで命を失っています。日本でも過去に、給食のソバが原因で小学生が亡くなっています。また、原因となる食品を食べただけでは発症せず、さらに運動をするこ

とによってはじめてアナフィラキシーが誘発される食物依存性運動誘発アナフィラキシーが近年、新しい食物アレルギーとして報告されています。この場合は、単に運動によって気分が悪くなったのだらうと安易に判断されて対応が遅れてしまいうことも想定されるため、新たな視点に立った細心の注意が求められます。

食物アレルギーというと、牛乳や卵などを食べて皮膚にブツブツができてかゆくなくなるくらいの軽い病気、あるいは病気としてさえ認められず、みんなと同じ食べ物を食べられない神経質でわがまま？な子どももくら